

おわりに

本特集号では、走錨事故対策の一つとして予定している錨泊に対する走錨危険性や適切な錨泊方法などの情報を船員に提示する走錨リスク判定システムを開発ために実施した主な研究について報告した。

走錨による海難事故を防止するための対策としては、2種類考えられる。1つは走錨の危険性がある地点での錨泊を回避すること、もう1つは錨泊中の錨鎖張力が一定以上となった場合には揚錨して移動することである。前者は錨泊地の選定を行う際の対策、後者は錨泊中の対策に該当する。走錨リスク判定システムは、前者の対策を支援するシステムである。

一方、後者の対策を支援するシステムとしては、①錨泊中の錨鎖張力のモニタリングデータと錨泊条件（水深、底質、錨・錨鎖特性）から算定される把駐力との比較等に基づき走錨危険度を評価し、②現状の走錨危険度の表示や警報の発出などを行うシステム（走錨リスクモニタリングシステム）が考えられる。走錨リスクモニタリングシステムを用いて実施中の錨泊の安全度や安全確保のための運用方法に関する情報を船員に提示することで、走錨事故の発生を防止することが考えられる。

今後、①錨泊開始前に走錨リスク判定システムを用いて適切な錨泊手法に関する情報を船員に提示することで、予想される気象・海象に対して適切な錨泊の実施が促進されるとともに、②錨泊中は走錨リスクモニタリングシステムを用いて現状の錨泊の走錨危険度に関する情報を乗組員に提示することで、走錨の危険を回避する適時の操船運用が促進されるようになれば、錨泊時の総合的な安全性向上が図られると考える。

最後に、本研究は国土交通省海事局安全政策課からの委託された「走錨リスク判定システムの確立のための調査事業」で実施したことを付記し、ご指導、ご助言をいただきました関係各位に深く感謝申し上げます。